

---

# HUNTER × HUNTERの世界

クルト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

HUNTER×HUNTERの世界

### 【著者名】

N7183N

### 【作者略】 クルト

【あらすじ】  
HUNTER×HUNTERに行くことになってしまった主人公  
の奮闘記

## 旅立ち（前書き）

完全初心者が趣味で書いているものなので誤字や文面がおかしい部分もあるかと思いますが、それでもよければ読んでみてください。

## 旅立ち

「いはぢだ？ 天国か？」

目が覚めると、真っ白な何も無い空間を漂っていた

「おい、お前のせいだ父上に怒られたんだぞ、責任とれよ」  
声のする方を振り向くとそこまでは誰もいなかつたはずなのに、  
偉そうな態度の子供がいた。

「こきなりなんなんだよ、それよつこいぢだ」

「めんどくせえやつだな」ゴシンヽ？（ヽヽヽ）――！」

「ハつ当たりするでない、お前のミスである」  
子供の後から光と共に立派な髪を生やした爺さんが現れ、杖で子供  
の頭を叩いた。

「いきなり何するんですか父上」

「もういい、お前は黙つておれ、少年よいきなつのことで混乱して  
いると思うが

落ち着いて聞いてくれないだろ？」

取り乱しても何も解決しないだろうと思ふ。

「分かつたまづこの状況を説明してくれ」

「まず自己紹介からするかのうわしは神じあ、  
そしてこのバカ息子に人間界の寿命の管理を任せていたんだが、  
このバカ息子のミスでおぬしの命の源である口ウソクを消してしま  
ったのじあ、

本当に申し訳ないお前も謝らんか」

「すみませんでした」

「どうゆつことだよそれ！」

「いなこと絶対にあつてはならんのじあがと言つておぬしを生き  
返らせる訳にもいかんだ、

「そりで一つの選択肢を選んでもらひ、一つはそのまま天国に行くか、もう一つは別の世界に行つてもらひ、

その世界はマンガのHUNTER×HUNTERじあもひけん謝罪の意味も込めて特典はつける2個までだ、

あと不死とかはなしじゃ

「なんでHUNTER×HUNTERなんだ？」

「わしが好きだから……」

「特典の内容は俺が決めていいんだな、少し考えさせてくれ」

HUNTER×HUNTERあの世界は誰がいつ死んでもおかしくない死と隣り合わせの世界だ、

慎重に考えないとすぐに死んでしまう。

「まず、努力した分だけ結果ができる体、（訓練しても結果がでないと意味がないからな）

二つ目は修行ができる空間で効果は、その空間で何年たつても年を取らないそれと修行内容にあつた環境を再現できる効果をつけてくれ、これは俺の念能力とは関係ないものに

（能力のメモリーの無駄使いはしたくないからな）」

「ん～～一つははいこが、二つについては少し厳しいのう、制約を付けるぞ、

無制限は無理じあから使えるのは1回だけ部屋の使用時間は20年

「容姿は特典の範囲なのか？」

「それはサービスじあから心配ない」

「だったら白髪で田の色は緋色で」

「それじあどうする修行してからHUNTER×HUNTERの世界の送るでいいかの？」

「それでいい

## 主人公設定（前書き）

修行及びハンター試験合格については割愛させてもらいます、  
一ツ星ハンターになつたところから本編は開始させてもらいます。

## 主人公設定

名前：クルト

性別：男

性格：慎重に考えてから行動タイプ

年齢：23歳（原作開始時）

職業：一ツ星ハンター（ブラックリストハンター）

容姿：白髪に緋色の目（緋の目ではない）

髪型は、さわやかナチュラルヘア

系統：変化系

能力：闇牙（具現化系、変化系の複合技）

日本刀の柄を具現化し柄にオーラを込めて刃をつくる、

ほかにも電気や水（蒸気、氷）、風の刃に変化させることもできる、

2本具現化できるがオーラの消費量が2倍に増える。

鞘も具現化可能で抜刀術も可能

（烈火の炎の闇水をイメージして作った）

制約

・常に刃を維持するためにオーラを消費する。

・電気、水（蒸気、氷）、風の刃に変化させるとオーラの消費量がオーラの刃の2倍消費する。

・闇牙を具現化せずにオーラを電気、水（蒸気、氷）、風に変化させると

威力及び効果が6割減少する。

風神雷神（変化系、強化系の複合技）

末梢神経を電気に耐えるように強化し直接電気流し込

み、

体に風を纏い高速戦闘を可能にした、

闇牙の制約で（闇牙を具現化せず

にオーラを電気、

水（蒸気、氷）風に変化させると効果が6割減少する

とあるが闇牙を具現化してさえいれば  
100%の効果で使用可能

（キルアの神速を参考にして作った）

#### 制約

- ・1日に使用可能時間は10分で能力発動から10分たつと自動的に強制解除され
- 24時間使用不可能になる

主人公は常に日本刀を2振り常に持つていて格下相手にはそれで対応する。

## 第287期ハンター試験原作介入（前書き）

主人公設定で少しだけ追加しました、  
今後もこういったことがよくあると思いますので  
そこは責めないでもらえると助かります。

## 第287期ハンター試験原作介入

修行を終えた俺はハンターになるために、第284期ハンター試験を受け合格した、

20年ひたすら修行したかいもありあつさりと合格した、  
原作が第287期ハンター試験なので原作の3年前みたいだ

原作に介入しようと決めていた俺は実戦での戦闘経験を積むために  
賞金首を探して世界を飛びまわる生活をしているとその功績が認め  
られ

3年後一ツ星ハンターになることができた。

どうゆう方法で原作介入しようか悩んでいると

『プルルル』

携帯がなり番号を確認するとネテロ会長だった

ネテロ「クルト仕事の依頼があるんじあが第287期ハンター試験  
の試験官を

やつてくれんかの」

原作介入できるチャンスと思つた俺はその依頼を受けることに決め  
た、

指定された場所に向かうとメンチと組んで試験官をやつてくれと言  
われた、

会長からメンチは食の試験をするらしいから暴走しないか監視して  
ほしいと、

ある賞金首を追つていた時にメンチと知り合い食のことで意気投合

した俺なら

暴走しても止めることができるだらうとの判断だった。

メンチ「ところでクルト試験内容は何になるの?」

クルト「薬草にしようかと思つ」

メンチ「薬草つてもしかしてあれのこと? あんたもイジワルね~」

試験会場となつてゐるビスカ森林公园には香辛料で

有名なパドキアという珍味の薬草がある、

薬草を取つてくる簡単そうな内容だが問題は薬草のある場所が問題だつた

魔獸の巣のすぐ近くにしか生えない薬草なのだ魔獸の強さはそれほど強くないので

受験生を試すには丁度いい内容になつてゐる

原作でのブハラの試験内容にしようと思つたが、あんななどんでもない量の豚の丸焼きを

処理できる胃袋は持つていないため、この試験内容したのであつた。

クルト「メンチは何にするんだ?」

原作知識はあつたが確認のために聞いておくことにする、現段階でもブハラの位置に俺がいることで原作を変えているため今後どう原作が変わっていくか分からぬからだ。

メンチ「寿司にしようかと思つてね」

クルト「寿司は海鮮魚だろ?」には川しかないから味にこだわるなよ、

洞察力を試す試験が味の試験に変わると意味ないからな

メンチ「分かつてゐわよ、そんなことぐらい」

クルト「それならしい、そろそろ時間だな」

## 『ボーン』

試験開始だゆっくりと扉が開いて受験生が見えてきた原作組はちやんと

一次試験に合格してるみたいだ主人公組に会えたことに少し感動しつつ表情に出さないように受験生を観察する

メンチ「おまたせ、そんな訳で一次試験は私たち美食ハンターが担当するわ」

クルト「美食ハンターって俺は違うぞ」「いいじゃないそんなこと関係ないわ」

いや関係無いことないとと思うんだが・・・・まあいいか

レオリオ「美食ハンター?」

クラピカ「美食ハンターとはあらゆる食材を探究しさらに新たな美味を創造する

ハンターのことだ」

さすがクラピカよく知っている、まあハンターを目指すならそれぐらい知つてて

欲しいが知らないって受験者多いからな

メンチ「一次試験の課題は料理よ」

料理! ！

まあ気持ちは分からぬくないがな、いきなり料理が課題と聞かされると、

ただそれはメンチの前では禁句だほら機嫌が悪くなつた

メンチ「不満がある人は今すぐ帰つていいのよ～」

メンチの言葉に黙る受験生一同

クルト「ではまず俺から課題を出す」この写真にあるパドキアの葉を取りつてきたもうう、  
写真は人数分あるから心配いらない制限時間は2時間パドキアの葉を俺に

渡したものだけが次のメンチの試験を受ける資格を得る、  
なおこの試験で他の受験生から奪うなどの行為をしたものは即刻不合格とする、

常に監視しているから注意するよつてそれでは「次試験開始！！」

いつせいに散つていく受験生全ての受験生が見えなくなつたのを確認して

クルト「メンチ落ち着け」

メンチ「分かつてゐわよ、でもあいつが」

あいつとはヒソカのことだ、俺達の姿を見た瞬間他の受験生に解らないように念で威嚇してくるからだ

クルト「気にするなそれに狙いは俺だろあいつ俺の正体に氣づいてるな」

さあやまな賞金首を捕まえてきた俺は一部のものたちには有名にな

つて いる、

白き閃光のクルトと言ひ異名までついてしまつたのだ  
俺の能力風神雷神を見たものがつけたらしい

2 時間後 . . . . . . . . . . . .

結果は忠告したのにズルしよつとした奴などいたが、原作組は全員  
合格していた

52名少し少なくなつてしまつたが仕方ないこれぐらいクリアでき  
ないと

ハンターなどやつていけないからだ、  
さてと問題は次だな暴走するよなやつぱり . . .

## メンチの暴走

メンチ「二次試験後半私のメニューは寿司よ」

寿司？

全く分からぬ受験生のためにヒントを出していくメンチしばらくすると、

403番レオリオが自身満々にレオリオスペシャルを出してきた、どんなんのか知つてはいたがあれは笑いをこらえるのには苦労したあれば料理ですら無い。。。。

その後も次々と料理をもつてくるがこいつらセンスがなさすぎるぞハンゾーが寿司を作つてきたが美味しくないからダメだった、それを聞いたハンゾーがついに爆弾を投下した

ハンゾー「なつなんだとー！握り寿司つてのは一口サイズの長方形に握つて

その上にワサビと魚の切り身をのせるお手軽料理だろうが～～～！」

あ～～あこうなることは解つていたがこれでほかの受験生にバレた、それを聞いたメンチはキレてしまい味の審査になってしまった

クルト「メンチいい加減にしろ」

メンチ「黙つてて」

これ以上美食ハンターでもない俺が言つても逆効果だと判断した俺は、会長であるネテロに電話をかけることにした

ネテロ「なんじあクルト」

クルト「会長の言つた通りメンチが暴走し初めてまして  
だから言つたじゃないですか美食ハンターでない俺が  
何言つても逆効果だとこちらに来て会長から注意してもらえません  
か」

ネテロ「しかたないの~~~~」

電話を切つた俺はやつぱり全員不合格か会場の雰囲気が最悪だ

『ドーン』

255番「納得いかねえな、とてもハイそうですかと帰るきになら  
ねえ、  
俺が目指してるのはコックでもグルメでもないハンターだ!!  
しかもプラックリストハンター志望だぜ美食ハンター」ときに  
合否を決められるのは納得いかねえって言つてるんだよ」

名前を忘れたがアホが文句を言つてている二つハンターを舐めてる  
だろ

メンチ「美食ハンター」とき?..」

まづいなメンチはこいつを殺すつもりだ、あいつの発言には俺も力  
チンとくるが

試験官が直接手を下すのはまづいと思つた俺は

『シユ・・・ドン』

一瞬で数Mの間合いを詰めて255番を念を込めてないパンチで約  
10Mほど殴り飛ばした、

俺の動きが見えていたのは受験生だと2人だけヒソカとイルミだ

クルト「メンチにも落ち度はあるがハンターを舐めるものいい加減にしろ

貴様「ことがハンターを愚弄するな、

次の試験のことを考えて手加減したが次はないと思え！……」

255番「何するんだてめえ」

俺が殴つたことでメンチは少しだけ落ち着いてきてるみたいだ

メンチ「255番あんたブラックリストハンター志望だといったわね、

それなのに彼のことも知らないなんてお笑いぐさね、  
それにブラックリストハンター志望？？笑わせんなつつの  
ハンターの中でも最も危険な分類に入るものよあんたなんか話にも  
ならないわ」

俺の動きや外見から判断したのかクラピカが

クラピカ「まさか……その白髪に緋色の目のブラックリストハンター……

もしかして白き閃光のクルト実感23歳にして一ツ星ハンターにな  
った」

やっぱりクラピカは知ってるみたいだな

彼もブラックリストハンター志望だから知っていても不思議じあ  
いからな

クルト「白き閃光と言うのは大げさだが多分それで違いない、

今ハンター協会に対応もらつていてるからおとなしく待つていろ」

それを聞いたメンチはこちらを睨んでたが受験者一同は少し安心したのかさつきよりも場の空気が静かになった変わりにヒソカからの挑発が強くなつた、

少しするとハンター協会のマークが入つた飛行船が到着すると飛行船から飛び降りる人影が見える

登場がいくらなんでも派手すぎるだろ会長！

会長の説得もあり原作通り再試験になつた課題は「湯で卵」俺はこの世界の非常識さに慣れてしまつてはいるがあんな断崖絶壁からちゅうちょなく飛び降りることのできることのできる原作組には呆れる結果255番は戦意喪失でリタイア一次試験合格者は42名となつた

## 第287期ハンター試験終了（前書き）

一次試験が終了した所ですが主人公は試験官であるため、試験終了まで割愛させてもらいます。

## 第287期ハンター試験終了

一次試験が終了し三次試験会場に移動中の飛行船のある一室  
試験官であるサトツ、メンチ、クルトが集まり雑談している

メンチ「ねえ、どう思つ? 一度全員落としとこで言つのもなんだけ  
どさ、

なかなかの粒ぞろいだと思うんだけどね、私294番  
なんか光つてたとおもうんだけどサトツさんどう?」<sup>ハンゾー</sup>

サトツ「ん~ そうですねルーキーがいいですね今年は私は断然99  
番ですな」<sup>キルア</sup>

メンチ「クルトはどう思つた?」

クルト「ルーキーで言えば404番<sup>クラビカ</sup>彼は全体的にバランスがいいし  
頭の回転も速そうだそれ意外だと44番<sup>ヒソカ</sup>だなあれば異質だ」  
サトツ「彼は我々と同じ穴の貉です、ただ彼は我々より暗い部分を  
好むようですが」

ヒソカについては警戒しておぐらいでいいだろ、  
試験中に戦闘になることはないと思つが警戒しておいて損はないだ  
ろうからな

受験者のほとんどがぐつたりとして次の試験に向けて英気を養つて  
いる、

三次試験会場であるトリックタワーに着いた

ここから最終試験までは介入することができないので  
最終試験まで念の基礎等、訓練に励むことにするツエズゲラのように  
サボつて基礎をおろそかにしていると後で痛い目にあつことは分か

つてないので、

俺は一日たりとも基礎訓練を欠かしていない。

四次試験が終了した、合格したメンバーを聞いた俺は少し驚いたメンバーが一名増えているからだ原作だと9名（ゴン、レオリオ、クラピカ、キルア、ハンゾー、ヒソカ、イルミ、ポックル、ボドロ）だったがポンズが増えていた詳しく聞いてみると、  
レオリオのターゲットがポンズではなく、同じくポンズのターゲットも  
バーボンではなく他の受験生だったらしいやはり俺が介入したことによつて  
多少の誤差が出でているみたいだ原作でのポンズの死にかたに多少の不満があつた俺はもしポンズが合格し縁んがあればポンズを鍛えることも有りなんじあないかと思つよつになつたいた。

最終試験を終つた結果はゴン、レオリオ、クラピカ、ハンゾー、ヒソカ、イルミ、ポックル、ポンズの8名やはりキルアは暴走してボドロを殺した、  
ゴン達はキルアの救出に向かうようだ、俺はこれ以上ゴン達に関わつて  
原作崩壊してしまつことを避けるためにキメラ＝アント編まではじつくりと  
待つことにする今まで賞金首を捕まえる生活ばかりしていたのでゆつくりと  
世界を見て回りたいと思い皆に挨拶をして会場を後にした。  
(ちなみに主人公の原作知識はキメラ＝アントの王宮突入までしか

ない  
(

## 第287期ハンター試験終了（後書き）

次の投稿なんですが今後の展開をじっくり考えて行きたいと思うので少し時間がかかると思います。

## 出会い

最終試験会場を後にした俺はアジト（家）に戻り今後どう行動するか  
考えるために列車での移動中

（列車等公共の移動手段を用いる時身分証明として  
ハンターライセンスの提示が義務とされているが、  
それは同時にライセンス狙いの請負人を呼び寄せることにつながるので対応が面倒になる、それを避けるために  
主人公は公共の移動手段を用いる時に  
ライセンスの提示はしないことにしている  
入国の時にはライセンスの提示はしている）

時間を潰すためにまだ読みきってない小説を時間があるので読んで  
いると

「じきなり何するのよあんたたちー！」

『ブシュ、ブシュ、ブシュ』

『ブ〜〜〜〜〜〜ン』

なんだこれ蜂！べそつやつかいなこれでもくらえー

『シュ〜〜〜〜〜〜』

何やり外が騒がしい、気になつたので声のする方に行つてみると  
全身黒ずくめのマスクを被つた、サイレンサー付きの拳銃を持った

男たちと

無数の蜂が戦闘状態になつていた

これこの臭いは . . . . . 催眠ガスか

ガスによつて眠らされた蜂達が次々とおちていく

クルト「（まさか . . . . 蜂 . . . 考えるのはあとだ、  
とにかくこいつらを先にかたづけるか）」

こいつら程度に念を使つまでもないと判断した俺は  
男たちの首田掛けて手刀をはなち氣絶させることにする

『シユ . . . シュ . . . バタツ』

手錠を男たちにはめて次の駅で警察に引き渡した俺は、  
ターゲットになつた人物を確認することにした

『クルト』（やつぱり予想道理か . . . . . ）

現場となつた一室には気持ちよさそうに寝ている少女ポンズであった  
同じく眠つてゐる蜂たちを回収し終えた俺は  
ポンズが起きるのを待つために先程の小説を読み始めるのであつた

♪ポンズ side♪

最終試験を終え無事ハンターになれた私は今思えばかなり浮かれて  
いた

ゴン達はキルア救出に向かうと言つがそんな危険なことをしたくない  
私はゴンの誘いを断りハンターとしての活動を開始するために  
ヨークシンシティに向かつ列車に乗つた

車掌「切符を拝見いたします」

切符と一緒にライセンスの提示をすると車掌が少し驚いた顔をした  
ポンズ「身分証明として提示が義務でしたよね？」

車掌「本物でお返しします」

この行動によつて生じる危険などこの時は  
全く予想もしていなかつた・・・

ガチャヤ

いきなりドアが開いたと思ったら黒ずくめの男達が  
いきなり銃を突きつけてきた

ポンズ「いきなり何するのよあんたたち！」

『プシュ、プシュ、プシュ』

いきなりのことで動搖する私が弾をよけることができたのは  
奇跡としかいえない、

『ノルマニ

なんだこれ蜂！くそつやつかいなこれでもくらえ！

シユ

一人の男がはなつた煙を吸つてしまつた  
私はろくな抵抗もできないまま眠気が襲い  
眠つてしまふのであつた

「ポンズ」（せつかくハンターになる）ことが出来た

このあの出会いで人生が大きく変わることをこの時は  
知るよしもないポンズであった

♪ ポンズ side End ♪

ポンズ「あつ . . .」

しばらくするとポンズが目を覚ましたようだ

クルト「とりあえず落ち着けあいつらなら俺が掃除しておいた」  
ポンズ「あつ、あなたは、試験官のクルトさん、

ありがとうございました」

クルト「ポンズなんでこんなことになつたか分かつてゐるか？」  
ポンズ「. . . . . . . . . . .すいません分からないです」

俺は少し呆れながらも

クルト「プロハンターになつてまだ1日しかたつてないから仕方なくもないが  
自覚がなさすぎる、まずライセンスを身分証明として提示したんじ  
あないか？」

ポンズ「そうです . . . .」

クルト「ライセンスを提示するところは、同時にライセンス狙  
いの請負人を

呼び寄せることになるハンター専用サイトに繋げる時も同様だ、  
受かつたからと言つて浮かれてるところになる」

ポンズは顔を真つ赤にしながらつむくのであつた

ポンズ「私、何もできなかつた . . . 浮かれていたのはたしかです .

．．．

もう見てられなかつた俺は

クルト「ポンズ覚悟があるのならば戦うための力を教えよう、  
ただその力を手に入れるともう後戻りはできない」

ポンズ「．．．．．．お願いします」

クルト「俺のことはこれから師匠と呼ぶように、

それと俺の言いつけはちゃんと守るように」

ポンズ「はい！、師匠よろしくおねがいします！／／／

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7183z/>

HUNTER × HUNTERの世界

2011年12月25日21時53分発行